

明日への約束

第39回 中国ブロック

理学療法士学会

Chugoku Block
Physical Therapist
Conference 2026

8.29_{sat} 30_{sun}

会場 | 島根県立産業交流会館 くにびきメッセ 島根県松江市学園南1丁目2-1

大会長 | 江草典政 (島根大学医学部附属病院)

抄録集



<https://39cbpt.gakujiyutsuweb.net/>

参加者の皆様へ

- ◎本大会ではオンデマンド参加のみの場合、生涯学習に関わるポイントの付与はありません。現地参加のみの付与となっております。
- ◎現地での参加登録をいただいた方は、オンデマンド参加登録を追加で行う必要はありません。自動的にオンデマンド視聴も可能となります。

	事前参加	当日参加 (オンデマンド参加も同額)
中国ブロック会員	5,000 円	6,000 円
他ブロック会員	6,000 円	7,000 円
PT 非会員 (PT 協会会員外、休会者)	12,000 円	15,000 円
他職種	8,000 円	8,000 円
学生*	無料	

①参加費

* 免許を取得している大学院生については一般参加の扱いとする
(学生は免許を有しない養成施設の学生等に限る)

②申し込み

事前申込期間

受付開始:2026 年6月 1 日(月) から

申込期限

支払い方法によって申込期限が異なります。よくご確認の上、参加登録をお願いします。

対面参加

- ・ クレジット:2026 年 8 月 23 日(日)まで
- ・ 口座振替:2026 年 7 月 27 日(月)まで
- ・ 現金振込:2026 年 8 月 4 日(火)まで

オンデマンド参加

- ・ クレジット:2026 年 9 月 6 日(日)まで
- ・ 口座振替:2026 年 8 月 15 日(土)まで
- ・ 現金振込:2026 年 8 月 18 日(火)まで

申込方法

(日本理学療法士協会会員の方)

協会ホームページ内のマイページより、生涯学習管理→セミナー検索・申込→セミナー番号検索を行います。参加方法および所属都道府県の違いによって選択する講義が異なります。選択にあたっては間違いの無いようにご注意ください。万が一、登録を間違った場合でも大会から返金やキャンセルの対応はできません。

セミナーID	講義番号	セミナー名
159805	287103	【対面(ブロック学会会員外)】
	287104	【対面(ブロック学会会員)】
159807	287106	【オンデマンド(ブロック学会会員外)】
	287107	【オンデマンド(ブロック学会会員)】

(会員外、休会者、学生の方)

2026 年 8 月 23 日(日)まで

申込方法:参加をご希望の方はメール(cbpt39.yakusoku@gmail.com)にご連絡をお願いします。

当日参加について

当日参加は現地参加に限ります。

登録の方法

(日本理学療法士協会会員の方)

JPTA アプリからのクレジットカード払いとなります。

(現金支払いも対応しますが、JPTA アプリからの支払いにご協力ください。また JPTA アプリの事前ダウンロードをお願いします。)

(非会員、他職種、学生の方)

非会員および他職種の方:受付で現金にてお支払いとなります。

学生の方:受付にて参加手続きを行ないます。

その他

プログラムの最新情報や詳細については、学会 HP をご確認ください。



29日

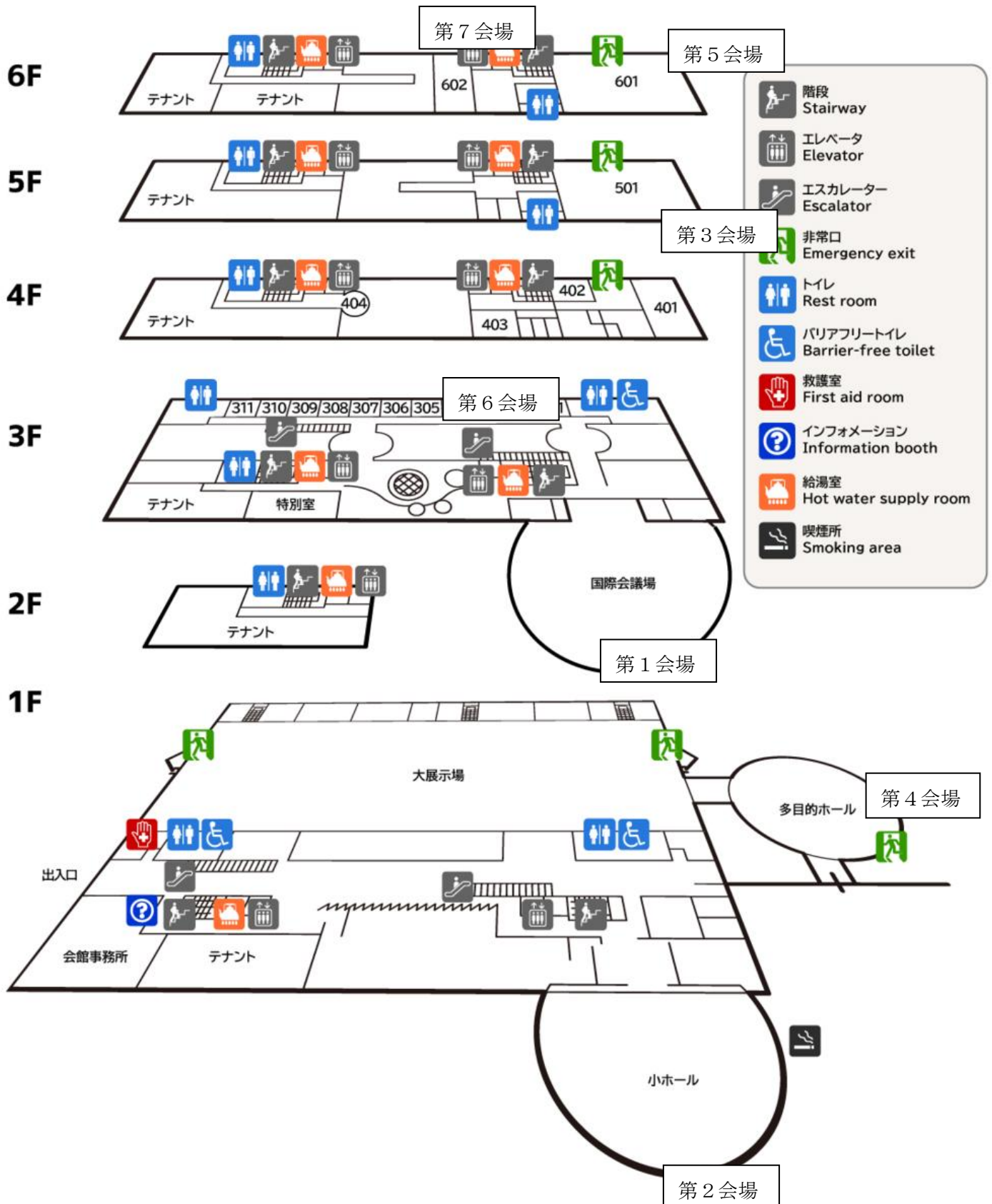
	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場		第5会場	第6会場	第7会場	
	国際会議場	小ホール	501	多目的ホール		601	303-304	602	
9:00									
10:00									
11:00	11:00-12:00 プレセミナーⅠ 講師:田中 祐介 座長:岡村 凌	11:00-12:00 プレセミナーⅡ 講師:谷内 涼馬 座長:西川 準	中国ブロック 理学療法士会 協議会 理事会	ポスター 貼り付け	休憩 スペース			中国ブロック 理学療法士連盟 会議	
12:00	12:20- 開会式								
	12:30-12:50 学会長講演								
13:00	13:00-14:00 基調講演 *オンデマンドあり 講師:神戸 翼 座長:嘉田 将典	サテライト中継	13:00-14:00 一般口述2			13:00-14:00 一般口述3	キッズスペース		
14:00									
	14:10-15:10 教育講演Ⅰ *オンデマンドあり 講師:平川 善之 座長:山科 俊輔	14:10-15:10 一般口述1 セレクション演題	14:10-15:10 一般口述4	14:10-15:10 ポスター発表1		14:10-15:10 一般口述5			
15:00									
	15:20-16:50 シンポジウムⅠ *オンデマンドあり 講師:田中 輝美 橋本 康太 岡村 健司 座長:野村 道德	15:20-16:50 Pros Cons *オンデマンドあり 講師:岩本 義隆 小原 謙一 石田 修平 福岡 卓 座長:森山 智博	15:20-16:20 一般口述6	15:20-16:20 ポスター発表2		15:20-16:20 一般口述7			
16:00									
			16:30-17:30 一般口述8			16:30-17:30 一般口述9			
17:00	17:00-18:00 教育講演Ⅱ *オンデマンドあり 講師:佐々木 翔太 座長:飯田 祐輝	17:00-18:00 教育講演Ⅲ *オンデマンドあり 講師:安藤 可織 座長:須山 朋子							
18:00									
19:00				レセプション					
21:00									

30日

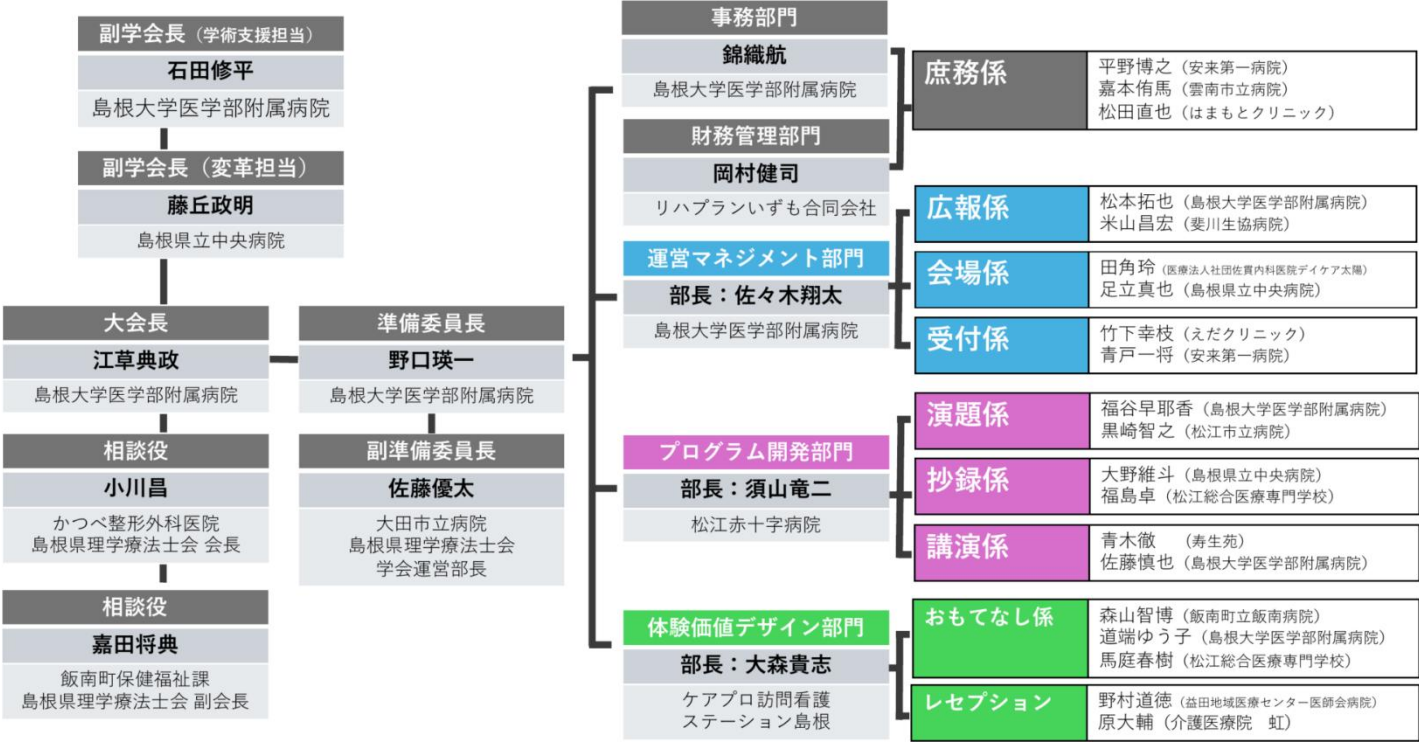
	第1会場	第2会場	第3会場	第4会場	第5会場	第6会場	第7会場
	国際会議場	小ホール	501	多目的ホール	601	303-304	602
8:00	8:00-9:00 モーニング セミナーⅠ 講師:大森 貴志 座長:嘉本 侑馬	8:00-9:00 モーニング セミナーⅡ 講師:池田 朋大 座長:佐藤 慎也		企業 展示準備			
9:00							
10:00	9:10-10:40 特別講演 *オンデマンドあり 講師:森岡 周 座長:小川 昌	サテライト中継	9:10-10:10 一般口述 10	9:10-10:10 ポスター発表 3	9:10-10:10 一般口述 11		生涯学習 担当者会議
			10:20-11:20 一般口述 12	10:20-11:20 ポスター発表 4	10:20-11:20 一般口述 13		
11:00	10:50-12:20 シンポジウムⅡ *オンデマンドあり 講師:平井 智也 和田 崇 水野 博彰 座長:藤丘 政明	サテライト中継					中国ブロック 理学療法士会連絡 協議会 働き方・就労に関 する部門担当者会議
12:00			11:30-12:30 一般口述 14	11:30-12:30 ポスター発表 5	11:30-12:30 一般口述 15		
13:00				企業 ミニレクチャー		キッズスペース	
14:00	13:20-14:50 基幹シンポジウム *オンデマンドあり 講師:武田 梢 寺中 雅智 猪村 剛史 中河 真吾 石光 雄太 甲田 宗嗣 齊藤 秀之 山根 一人 座長:江草 典政	サテライト中継		ポスター撤去			
15:00	閉会式 第40回学会会長 挨拶						
16:00							
17:00							
18:00							



会場案内図



第39回中国ブロック理学療法士学会 組織図



一般演題発表（口述）

8月29日(土)14:10~15:10 一般口述1(セレクション演題)

会場:第2会場(小ホール)

座長:石田 修平(島根大学医学部附属病院)

座長:藤丘 政明(島根県立中央病院)

01-1 病いの受け入れと葛藤:脳腫瘍患者としての経験を通した語り

邑智郡公立病院組合公立邑知病院

田中 祐介

01-2 認知症世帯の福祉課題 6 類型と孤独関連一都市部と中山間部・離島部比較一

サカ緑井病院

廣濱 賢太

01-3 進行食道癌患者における術前化学療法期の歩数と術後呼吸器合併症の非線形用量反応関係:
後方視的観察研究

岡山大学病院

池田 朋大

01-4 心不全前段階におけるデジタルヘルスを活用した遠隔フォローアップは吸気筋機能の改善に
寄与する

広島国際大学大学院 医療科学研究科

田村 虎太郎

01-5 人工膝関節・股関節患者の健康の社会決定的要因と予後との関連:システムティックレビューと
メタアナリシス

島根大学医学部附属病院

中尾 珠理

01-6 人工関節置換術後患者における社会的決定要因の蓄積と術後アウトカムの関連:
多施設共同コホート研究

川崎医療福祉大学

佐藤 宏樹

8月29日(土)13:00~14:00 一般口述2

会場:第3会場(501)

座長:山崎 祐輔(YMCA 米子医療福祉専門学校)

02-1 認定スクールトレーナーと幼稚園の協働による保健だよりを活用した投球動作向上への運動指導
の実践と評価

岡山大学病院

山脇 諒子

02-2 脊柱後彎が膝部動揺の能動的制限下での片脚立位時の姿勢制御戦略に及ぼす影響

みなみ整形・痛みクリニック

中瀬 小百合

02-3 中学生のスポーツ障害に対する理学療法士による保健指導の有効性

島根大学医学部附属病院

福谷 早耶香

02-4 スポーツ経験のある若年女性における膝痛と摂食態度の関連性について

長谷川記念病院

仙田 小次郎

02-5 前十字靱帯再建術後症例の問診に基づく損傷リスク因子の仮説生成

島根大学医学部附属病院

曾田 遥菜

02-6 肩関節後方タイトネスに対する超音波併用理学療法の有効性:シングルケースデザインによる検討

倉敷中央病院

北本 恭吾

8月29日(土)13:00~14:00 一般口述 3

会場:第5会場(601)

座長:楠田 賢斗(広島大学病院)

03-1 脳卒中重度片麻痺患者における歩行獲得に影響する因子の検討

—Cox 比例ハザードモデルによる検討—

岡山リハビリテーション病院

浅野 智也

03-2 発症早期の脳梗塞患者における転帰先に関連する因子の検討

NHO 呉医療センター

山本 雅

03-3 脳卒中片麻痺者における歩行速度と運動学的特性との関連構造:ストライド長とケイデンスを介した検討

五日市記念病院

米原 希

03-4 脳卒中片麻痺患者における歩行運動イメージ能力と実際の歩行能力の関係性:
遂行機能の媒介的関与の検討

広島都市学園大学

田邊 淳平

03-5 若年脳卒中患者の就労に向けた長期的介入経過:症例報告

岡山リハビリテーション病院

大島 埴生

03-6 歩行練習支援ロボットと電気刺激の同時併用により歩行能力および
足関節運動が改善した脳卒中片麻痺の一症例

岡山リハビリテーション病院

山田 健太

8月29日(土)14:10~15:10 一般口述 4

会場:第3会場(501)

座長:岡田 有司(川崎医科大学附属病院)

04-1 備品 KAFO 適合不良例に対し早期にオーダーメイド KAFO を導入した視床出血後重度片麻痺の一例

出雲市民リハビリテーション病院

大平 岳

04-2 立脚期不十分症例に対する補装具再導入の有効性~KAFO を用いた歩行再教育の一症例~

西広島リハビリテーション病院

水橋 佑太

04-3 重症くも膜下出血に対するリハビリテーションの治療経験~早期積極的介入の重要性~

浜田医療センター

山野 寛太

04-4 多職種にて家族の介護不安に対する支援を行い自宅復帰に至った重度脳梗塞患者の一症例

益田地域医療センター医師会病院

平中 丈一郎

04-5 視床出血を伴う悪性神経膠腫症例に対し足底感覚を活用した介入により
歩行中の膝関節過伸展が改善した一例

島根大学医学部附属病院

吉原 知宏

04-6 自己効力感が低下した回復期脳卒中患者に対し中高強度身体活動に着目した
歩行練習を実施した一例

川崎医科大学附属病院

田中 大地

8月29日(土)14:10~15:10 一般口述 5

会場:第5会場(601)

座長:三嶋 可奈子(鳥取県立中部療育園)

05-1 児童発達支援の「5領域」と理学療法士

キッズさぼーと yui

田原 岳治

05-2 長期入院の小児がん患者における部位別 Phase angle の変化と傾向

鳥取大学医学部附属病院

廣瀬 佳乃子

05-3 重度脳形成異常に対する環境調整と家族支援を含めた理学療法の検討
ー6歳滑脳症児の長期経過からー

川崎医療福祉大学

永田 裕恒

05-4 自主トレーニングの定着に難渋した多発性筋炎の一症例
～興味関心に着目したモチベーション支援の工夫～

倉敷中央病院

土井 明日香

05-5 延髄内側損傷後の Body lateropulsion における運動学的特性の経時的変化の特徴:症例報告

大山リハビリテーション病院

井川 衛

05-6 「pen pal のあなたに聞きたい。理学療法士を続けられる理由は何ですか」ー往復書簡の SCAT 分析

キッズさぼーと yui

田原 岳治

8月29日(土) 15:20~16:20 一般口述 6

会場:第3会場(501)

座長:杉本 雅彦(山口県立総合医療センター)

06-1 腰部脊柱管狭窄症術後患者の6分間歩行距離の改善に影響する体幹・下肢筋の筋質の検討

岡山労災病院

坂口 知義

06-2 人工膝関節全置換術後の退院時 TUG に対する術前因子の構造的検討
身体機能及び心理因子の階層的重回帰分析

玉造病院

山崎 和行

06-3 腰部脊柱管狭窄症患者における BMI 補正サルコペニアと術後1年アウトカムとの関連

鳥取大学医学部附属病院

和田 崇

06-4 腰部脊柱管狭窄症術後の腰痛再燃と術前多裂筋活動との関連

鳥取大学医学部附属病院

橘田 勇紀

06-5 音声認識ソフトによる TKA 術後聴覚障害者のリハビリテーション支援ー患者満足度が改善した症例ー

倉敷中央病院

杉本 啓輔

06-6 体幹筋の筋内脂肪浸潤と誤嚥性肺炎発症の関連:大腿骨近位部骨折後の高齢女性における検討

金田病院

藤本 貴大

8月29日(土)15:20~16:20 一般口述 7

会場:第5会場(601)

座長:井上 魁(鳥根県立中央病院)

07-1 腱板断裂における肩甲背動脈血流は肩関節内旋可動域と関連する:
棘下筋横断面積の媒介効果の検討

鳥取県立中央病院

川淵 敬太

07-2 手術待機中の合併症管理中に急性増悪を呈した頸椎後縦靱帯骨化症の一例

島根県立中央病院

間壁 弘行

07-3 Ex-medialization と非内側化鏡視下腱板修復術の術後成績の比較

竜操整形外科病院

仁科 雅斗

07-4 関節鏡下腱板修復術後 1 週までの疼痛強度は術後 3 か月時点での遷延性術後痛と関連する

島根大学医学部附属病院

佐藤 光

07-5 人工膝関節全置換術に対する CPM 使用期間の違いが術後身体機能に与える影響

小郡第一総合病院

石津 直希

07-6 超音波画像診断装置の理学療法士教育への応用～ピア・ティーチングが自己効力感にもたらす効果～

福田整形外科病院

森脇 俊貴

8 月 29 日(土)16:30～17:30 一般口述 8

会場:第 3 会場(501)

座長:坂口 知義(岡山労災病院)

08-1 超音波評価を用いて腫脹に着目した介入が外転筋機能および歩行能力改善に寄与した人工股関節全置換術後症例

倉敷中央病院

小野 萌

08-2 両踵骨骨折後の両下肢免荷期間における筋の経時的変化～超音波画像診断装置を用いた評価～

興生総合病院

笹井 涼

08-3 人工股関節全置換術後も持続した変形性股関節症に伴う尿失禁症状が骨盤底筋体操により改善した 1 例

島根大学医学部附属病院

福谷 早耶香

08-4 軽症変形性膝関節症におけるアウトカム選択の検討
～歩行・患者報告アウトカム・身体機能の 3 ヶ月縦断観察～

平病院

西本 晟

08-5 山口市少年野球肘検診の活動報告 第 2 報～上腕骨小頭離断性骨軟骨炎の転帰についての一考察～

小郡第一総合病院

藤井 俊充

08-6 歩行中の左右対称性指標と認知機能低下の関連—OpenPose による検討—

島根大学医学部環境保健医学講座

山科 俊輔

8 月 29 日(土)16:30～17:30 一般口述 9

会場:第 5 会場(601)

座長:片山 翔(岡山大学病院)

09-1 慣性センサーを用いた脳卒中片麻痺患者における歩行変動性の評価

川崎医療福祉大学

大坂 裕

09-2 女性尿失禁外来患者における高密度焦点式電磁技術を用いた治療による尿失禁症状および QOL の変化量の検討

岡山中央病院

後藤 千乃

09-3 女性尿失禁患者に対する高密度焦点式電磁技術による尿失禁症状および QOL の年齢別変化

岡山中央病院

福田 ちひろ

- 09-4 化学療法誘発性末梢神経障害に対してしびれ同調経皮的電気神経刺激が効果的であった一例
島根大学医学部附属病院 田中 和喜
- 09-5 当院における前立腺全摘除術施行患者に対する骨盤底筋トレーニング指導の活動報告
岡山医療センター 岩田 真美
- 09-6 高齢心不全患者における身体機能と生命予後との関連性に対するエネルギー摂取量の影響
下関市立市民病院 月城 一志

8月30日(日)9:10~10:10 一般口述 10 会場:第3会場(501)

座長:川田 稔(倉敷記念病院)

- 010-1 透析中足趾トレーニングが足趾機能に与える影響—血液透析患者の多層ベースライン研究—
小郡第一総合病院 中寄 大貴
- 010-2 糖尿病性神経障害による著明な起立性低血圧により理学療法に難渋した重症下肢虚血の一例
岡山赤十字病院 岡田 佳樹
- 010-3 復職を達成したが復職後に運動耐容能が進行性に低下した肥満合併心不全の1例
島根産業保健総合支援センター 須山 朋子
- 010-4 糖尿病性自律神経障害患者に対する呼吸調整の臨床的検討 1症例の経過報告
島根大学医学部附属病院 伊藤 郁子
- 010-5 2型糖尿病患者における大腰筋の量的・質的指標および栄養状態は身体機能に関連する
下関市立市民病院 水野 博彰
- 010-6 過活動による心不全増悪を繰り返す患者に対し身体活動量計を用いたセルフケア指導が有効であった一症例
下関市立市民病院 月城 一志

8月30日(日)9:10~10:10 一般口述 11 会場:第5会場(601)

座長:前原 宏樹(芳野病院)

- 011-1 高強度運動前の Central command に関連する呼吸循環指標の特徴
広島国際大学大学院 医療科学研究科 宮丸 朋弥
- 011-2 嫌気性代謝閾値時の血圧の違いによる外側広筋の筋活動パターンの比較:健常若年者による検討
広島国際大学大学院 医療科学研究科 有藤 結太
- 011-3 ティルト・リクライニング・背張り調整併用時における臀部ずれ力変動幅を軽減する背もたれ機構の検討
川崎医療福祉大学 小原 謙一
- 011-4 熱傷植皮後患者における早期離床と術後4週の運動機能および日常生活動作との関連:
単施設後ろ向き観察研究
鳥取大学医学部附属病院 亀井 俊輔
- 011-5 疲労感と筋力低下の増悪により排泄動作自立に難渋した第一腰椎圧迫骨折の1例
松江記念病院 右田 剛己

011-6 リハビリテーション科における災害初動体制の構築
ーアクションカード策定と訓練を通じた組織的対応の検討ー

県立安芸津病院

小武 裕香

8月30日(日)10:20~11:20 一般口述 12

会場:第3会場(501)

座長:須山 朋子(島根県産業保健総合支援センター)

012-1 ICU 患者の身体機能評価尺度における退院時 ADL 自立予測能の比較:前向き単施設研究

岡山大学病院

片山 翔

012-2 多職種協働による PICS ラウンドの導入と初期運用の報告

松江赤十字病院

武部 晃平

012-3 肺葉切除術後の創部感染を契機に悪液質を呈した高齢 COPD 患者に対する
栄養管理と運動療法の一例

松江赤十字病院

内藤 優人

012-4 体幹前傾座位での咳嗽姿勢の指導により自己排痰が可能となった筋萎縮性側索硬化症の1例

島根大学医学部附属病院

升田 悠真

012-5 術後合併症ハイリスク肺癌患者におけるプレハビリテーションの効果:
吸気筋力改善幅と術後合併症の関係

倉敷中央病院

小野 敬史

012-6 急性増悪を繰り返す特発性肺線維症患者に対し指導内容・方法を工夫することで
自宅退院が可能となった一症例

倉敷中央病院

山本 莉奈

8月30日(日)10:20~11:20 一般口述 13

会場:第5会場(601)

座長:馬庭 春樹(松江医療専門学校)

013-1 理学療法士の参画がポリファーマシーチームでの薬剤調整とリハビリテーション進行に
与えた影響について

島根県立中央病院

高見 仁晴

013-2 早産・低出生体重児における学童期以降の呼吸筋力の実態:系統的レビューおよびメタ解析

川崎医療福祉大学

三木 あゆみ

013-3 横隔膜エコー指標と運動耐容能および呼吸筋力との関連:系統的レビューおよびメタ解析

岡山大学病院

松田 圭太

013-4 異なる SPPB 採点基準を用いた胸腹部外科術後の呼吸器合併症の割合調査

島根大学医学部附属病院

田川 菜乃羽

013-5 食道がん術後患者の術後呼吸器合併症に関する術前身体機能・術中因子の包括的検討:
単施設後方視的研究

島根大学医学部附属病院

永尾 悠

013-6 間質性肺炎患者における酸素流量改善に関連する因子の検討

広島市立舟入市民病院

木下 美智子

8月30日(日)11:30～12:30 一般口述 14

会場:第3会場(501)

座長:中川 敬汰(広島都市学園大学)

014-1 生活期における治療的装具療法の実践

えだクリニック

川勝 修就

014-2 腰椎椎体骨折後の疼痛による意欲低下で離床に難渋した症例

-在宅他職種連携にて排泄自立に至った経過-

株式会社 VitaR HIROGARI 訪問看護リハビリステーション

堀井 啓介

014-3 通所介護施設での移動自立への取り組み～スタッフの介護負担軽減に向けて～

株式会社ツクイ 周南久米営業所

増田 真弥

014-4 医療・介護施設における職務満足度と職場環境要因との関連

-働きやすい職場環境の構築に向けた検討-

みずほ内科クリニック

木下 貴文

014-5 1年後に主観的健康感の悪化を自覚する地域在住高齢者のベースライン特性

～GRCを用いた縦断研究～

平病院

岡田 竜磨

014-6 山口県理学療法士会として行った市町村伴走支援事業の今とこれから

済生会山口地域ケアセンター湯田温泉病院

藤村 亮

8月30日(日)11:30～12:30 一般口述 15

会場:第5会場(601)

座長:森本 宙(株式会社ライオンハート)

015-1 地域在住高齢者の全身における慢性疼痛部位の増加は転倒自己効力感の低下に関連する

広島都市学園大学

藤井 紀文

015-2 急性期入院患者における転倒・転落発生場所と基本動作能力の関連

—ABMSⅡを用いた後ろ向き観察研究—

広島市立北部医療センター安佐市民病院

小林 浩介

015-3 脆弱性骨折の一次予防におけるFRAX・OSTAを用いた有効なスクリーニングの検討

竜操整形外科病院

川口 直樹

015-4 臨床実習初日の初期調査が実習到達度に与える影響について

重井医学研究所附属病院

石田 祥児

015-5 職能団体による理学療法学生へのキャリア教育事業 ～3年間の成果報告～

一般社団法人 島根県理学療法士会 学術局 卒前教育部

堀内 秀太郎

015-6 リハビリテーション診療録記載の平準化と標準化による記載量の適正化および質的向上への取り組み

市立三好中央病院

住田 有輝人

一般演題発表（ポスター）

8月29日(土)14:10～15:10 ポスター1

会場:第4会場(多目的ホール)

座長:長崎 正義(隠岐病院)

P1-1 発症5カ月目の座位の不安定な脳卒中患者へ姿勢運動制御への介入により

立位バランスが改善した症例報告

出雲市民リハビリテーション病院

持田 桂一

P1-2 回復期の不全頸髄損傷後に歩行練習支援装置と従来の歩行練習を継続し歩行再建に繋がった一例

出雲市民リハビリテーション病院

倉橋 篤司

P1-3 結核性髄膜炎患者に対する急性期理学療法介入により運動機能改善を認めた1症例

広島市立北部医療センター安佐市民病院

川野 義晴

P1-4 退院後の活動制限が予測される脳卒中者に対し、歩行バランスに着目した介入で

買い物に行くことができた症例

出雲市民リハビリテーション病院

福田 涼太

P1-5 頸椎・胸椎 OPLL 術後患者に BWSTT で歩行改善を認めた症例

玉造病院

三宅 佑佳

P1-6 進行性核上性麻痺に対しロボット補助下歩行練習を行った一症例

松江医療センター

水口 大輔

P1-7 ロボット補助下歩行練習を2年間行い歩行機能とQOLが向上した筋ジストロフィーの一症例

松江医療センター

石田 広輝

P1-8 重度熱中症後に運動失調を呈した症例に対する歩行訓練の効果

出雲市民リハビリテーション病院

伊藤 翔太郎

P1-9 「膝内反変形を伴った脳卒中重度片麻痺患者に対し、下肢装具選定を工夫した一例」

出雲市立総合医療センター

白築 椋真

P1-10 歩容へのこだわりと目標の乖離により主観的回復感が得られにくかった一症例

岡山リハビリテーション病院

小坂 幸慶

P1-11 右片麻痺を呈した心原性脳塞栓症において、痙縮と注意障害が歩行安定性の獲得に関与した一例

出雲市民リハビリテーション病院

尾添 良真

8月29日(土)15:20～16:20 ポスター2

会場:第4会場(多目的ホール)

座長:松本 浩実(川崎医療福祉大学)

P2-1 パーキンソン病に伴う首下がり症候群に対する胸椎可動性運動の効果—急性心筋梗塞後の一症例—

県立広島大学

川崎 翼

P2-2 ソケット開窓により義足装着手技を獲得した高齢下腿切断者の一例

出雲市立総合医療センター

小椋 龍太郎

- P2-3 人工股関節置換術後に残存した Duchenne 歩行への可動域改善と運動再学習が歩容改善に寄与した一症例
益田地域医療センター医師会病院 岡村 恭兵
- P2-4 人工膝関節置換術後患者における身体活動量の経時的変化 -5 症例の経過報告-
竜操整形外科病院 津川 颯志
- P2-5 大腿骨近位端骨折患者における栄養指標 GNRI と術後 2 週時歩行自立の関連
小郡第一総合病院 奥林 裕太
- P2-6 大腿骨近位部骨折術後患者の術後移動能力に影響する要因について
浜脇整形外科病院 渡部 将太
- P2-7 人工膝関節全置換術後の Stiff-Knee-Gait に対し、歩行補助ロボットがもたらす効果
益田地域医療センター医師会病院 入澤 新大
- P2-8 LINE を用いたセルフトレーニング動画自動送信による運動支援が身体機能改善に寄与した高齢者の一症例
寿生苑 青木 徹
- P2-9 座位開閉ステップングによる敏捷性トレーニングが姿勢制御に与える影響
広島都市学園大学 石倉 英樹
- P2-10 5 歳児の足部アーチタイプによる足底圧力、足底接地面積の特徴
広島都市学園大学 平岩 和美

8 月 30 日(日)9:10~10:10 ポスター3

会場: 第 4 会場(多目的ホール)

座長: 平野博之(安来第一病院)

- P3-1 内側型変形性膝関節症に対する後足部に着目したインソール療法の効果
鳥取県中部医師会立三朝温泉病院 別所 大樹
- P3-2 多飲による水中毒に伴う横紋筋融解症を呈したうつ病患者に対する急性期理学療法の一例
松江赤十字病院 佐々木 順一
- P3-3 当院での回復期リハビリテーション病棟の介入時間向上と患者確保への取り組み
—入棟判定会議導入の効果—
浜田医療センター 車田 良介
- P3-4 高校男子バレー初心者における垂直跳び動作の運動学的解析—OpenCap を用いた下肢機能との関連—
出雲医療看護専門学校 高田 秀志
- P3-5 日本最初期の理学療法士が語る理学療法士であることの価値
キッズさぼーと yui 田原 岳治
- P3-6 70 歳代医師と 20 歳代医師の世代差にみる理学療法士の役割
キッズさぼーと yui 田原 岳治
- P3-7 リハビリテーション部門におけるチームビルディング研修の効果 -TAAS-R を用いた検討-
島根大学医学部附属病院 黒崎 育美

P3-8 スタッフの客観性的労務データと主観的心理指標を統合した成長支援

公立邑智病院

鈴木 雅仁

P3-9 バックキャストイング面談による自己調整学習の促進：計画性と成功イメージの獲得過程に着目して

公立邑智病院

藤原 太地

P3-10 脳梗塞を併発した下腿切断患者の疼痛に対し、認知神経リハビリテーションを用いた一例

益田地域医療センター医師会病院

岡村 凌

P3-11 高度肥満を呈する重度脳卒中患者に対する長下肢装具療法の意義

—車椅子生活を見据えた体幹機能改善の効果—

松江生協病院

森脇 大樹

8月30日(日) 10:20~11:20 ポスター4

会場：第4会場(多目的ホール)

座長：前原 達哉(山口大学医学部附属病院)

P4-1 消化器がん手術患者における術前身体機能と術後早期歩行自立との関連

岡山労災病院

吉川 昌輝

P4-2 重量物挙上動作における開始様式の違いが筋電図活動に及ぼす影響

—自発的開始と他者指示開始の比較—

広島都市学園大学

藤村 昌彦

P4-3 介護予防教室における歩数セルフモニタリングを併用したピラティス介入が身体活動量に与える影響

+natural

皐月 幹太

P4-4 リハビリテーション・栄養・口腔連携体制加算導入への取り組み：活動報告

周東総合病院

溝口 桂

P4-5 終末期に肺血管拡張薬治療を開始した膠原病性肺動脈性肺高血圧症の一例

島根大学医学部附属病院

原 祐樹

P4-6 ICU-AW を発症した ARDS 患者 -ADL 改善に努めた症例-

県立広島病院

西本 佑奈

P4-7 成長に合わせた装具製作・移動方法の検討を行った頸椎不安定性を有する

点状軟骨異形成症児の1症例

島根大学医学部附属病院

今岡 圭

P4-8 巨大臍帯ヘルニア児に対し腹部保護装具の導入と生活場面を想定した家族指導により

自宅退院に至った1例

島根大学医学部附属病院

田代 愛奈

P4-9 急性心不全患者に早期より離床を実施するも静脈血栓塞栓症を発症した1症例

島根県済生会江津総合病院

米原 佑哉

P4-10 広島県理学療法士会循環器病対策委員会の取り組みと課題—理学療法提供体制の整備に向けて—

(公社)広島県理学療法士会

谷口 亮治

8月30日(日)11:30～12:30 ポスター5

会場:第4会場(多目的ホール)

座長:平岩 和美(広島都市学園大学)

P5-1 院内研究支援チームの活動報告～研究活動の活性化に向けた支援体制と阻害要因の検討～

安来第一病院

平野 博之

P5-2 CEPTを用いた当センター内理学療法士の自己研鑽と臨床能力の関連性

益田地域医療センター医師会病院

沖野 辰也

P5-3 2対1モデル臨床実習における指導者の関わりと学生の協同学習への内発的価値との関連

玉造病院

長谷川 哲也

P5-4 臨床実習における学生の学習方略と感情のおよび行動的エンゲージメントの関係について

島根リハビリテーション学院

山崎 健治

P5-5 臨床で行う症例検討会と、担当理学療法士がその検討会の良し悪しを
ブラインドアンケートにて評価する試み

錦海リハビリテーション病院

遠藤 美紀

P5-6 高校生の探究的学習を媒介とした地域理学療法の実践—中学生を対象とした予防教育の試み—

海士診療所

佐藤 友樹

P5-7 活動報告:ヘルスリテラシー向上を目的とした地域における健康教室

錦海リハビリテーション病院

上村 順一

P5-8 リハビリテーション専門職における ACP の現状及び課題

訪問看護ステーションありがとう

濱田 龍

P5-9 2000年以降の島根県における地域リハビリテーションのあゆみと今後の展望

飯南町地域包括支援センター

嘉田 将典

P5-10 島根県邑智郡でのスタディツアー事業の取り組み報告と今後の展望

島根県理学療法士会

原 大輔

8月30日(日) 9:10～10:40 くにびきメッセ 第1会場(国際会議場) *オンデマンド配信あり(HP)

特別講演

リハビリテーション ～人が生きることをめぐる旅～



講師 もりおか しゅう 森岡 周 先生

(Centre de Recherche en Neurosciences de Lyon,
Université Claude Bernard Lyon 1, INSERM, CNRS
畿央大学ニューロリハビリテーション研究センター)

座長 小川昌 (かつべ整形外科クリニック)

リハビリテーションとは、何を回復し、何を支える営みなのだろうか。同じ病態であっても同じ回復が生じるとは限らない。機能が改善しても生活が戻らないこともあれば、数値に表れない変化がその人の生を深く支えることもある。従来の評価指標や枠組みでは、「人が生きる」という臨床の現実を十分に捉えきれないのではないか。リハビリテーションは過去を修復する営みであると同時に、その人の「明日」をいかに開くかという、未来への約束を内包した実践である。

理学療法士・研究者として、私は神経疾患のリハビリテーションに長く携わってきた。フランスでの臨床研究、ニューロリハビリテーションや社会脳研究、アートとの接点、これらの経験は、回復を個体内の機能変化としてではなく、身体・他者・環境との関係のなかで再構成される過程として捉える視座を与えてくれた。

その都度、私を突き動かしてきたのは、「なぜこの人はこのように生きようとしているのか」「回復とは誰の視点で語られているのか」という問いであった。科学的に正しいことと、当事者にとって意味のあることのあいだに生じる緊張は、しばしば私自身の思考と実践を揺さぶってきた。評価指標やエビデンスの重要性を認めつつも、それだけでは掬いきれない当事者の経験が、臨床には確かに存在する。

私にとってリハビリテーションとは、失われた機能を元に戻す技術ではなく、人が再び自らの生活と未来を引き受けていくための旅である。本講演では、私のキャリアにおいて何を考え、何を実践してきたのか。その旅路のなかで見てきたリハビリテーションの姿を共有したい。そして、これからの実践で何を成し遂げたいのかを語りたい。この「人が生きることをめぐる旅」が、参加者一人ひとりにとって、自身の臨床・研究・社会的実践における「明日への約束」を問い直す機会となれば幸いである。

森岡 周 先生

学歴・職歴

1992 年高知医療学院理学療法学科卒業

1992 年近森リハビリテーション病院理学療法士

1997 年 Centre Hospitalier Sainte-Anne, Paris, France 留学

2001 年高知大学大学院教育学研究科修士課程修了 修士(教育学)

2004 年高知医科大学大学院医学系研究科博士課程修了 博士(医学)

2007 年畿央大学大学院健康科学研究科主任・教授 現在に至る

2013 年同ニューロリハビリテーション研究センター長 現在に至る

2014 年首都大学東京(現・東京都立大学)客員教授 現在に至る

2026 年 Visiting Professor, Centre de Recherche en Neurosciences de Lyon, Université Claude Bernard Lyon 1, INSERM, CNRS, France 現在に至る

受賞歴(筆頭のみ記載)

第 38 回日本理学療法学会 学術奨励賞(2004 年)

第 17 回理学療法ジャーナル賞 医学書院(2006 年)

社団法人奈良県理学療法士会 学術奨励会長賞(2007 年)

第 52 回日本理学療法学会 最優秀賞(2018 年)

第 1 回日本理学療法学会連合学術総会 臨床研究学術賞(2026 年)

現在の主な学会および社会活動

一般社団法人日本神経理学療法学会 副理事長

JST 戦略的創造研究推進事業(CREST)マルチセンシング領域共同研究者

単著・編著抜粋

リハビリテーションのための脳・神経科学入門第 2 版(協同医書出版社)

リハビリテーションのための神経生物学入門(協同医書出版社)

脳を学ぶ-「ひと」とその社会がわかる生物学-(協同医書出版社)

ペインリハビリテーション(三輪書店)

イメージの科学-リハビリテーションへの応用に向けて-(三輪書店)

標準理学療法学 神経理学療法学第 3 版(医学書院)

発達を学ぶ-人間発達学レクチャー(協同医書出版社)

コミュニケーションを学ぶ(協同医書出版社)

身体性システム科学とリハビリテーション(東京大学出版社)

高次脳機能の神経科学とニューロリハビリテーション(協同医書出版社)

脳とこころから考えるペインリハビリテーション(杏林書院)

ピアジェ・思考の誕生-ニューロサイエンスと哲学から読み直すリハビリテーションの新しい地平-(協同医書出版社)

学術論文

<https://researchmap.jp/sssr4>

基調講演

未来のために“今”を捉える

～オープンデータを活用した地域分析の手法と求められる人材～



講師 ^{かんべ}神戸 ^{つばさ}翼 先生

(医療法人社団永生会 永生総合研究所)

座長 嘉田将典 (飯南町保健福祉課 地域包括支援センター)

少子高齢化や人口減少が進む中、理学療法士を取り巻く地域医療・介護の環境は大きな転換期を迎えている。しかし、日々の臨床現場では、こうした変化を実感する機会は多くなく、「今」の延長線上に「明日」があるという前提で業務が続けられているのが実情である。本講演では、学会テーマである「明日への約束」を踏まえ、理学療法士が未来を見据えて行動するために必要な視点として、オープンデータを活用した地域分析に着目する。オープンデータを用いることで、人口構成、疾病構造、要介護者数、医療・介護資源の分布など、地域の将来像を客観的に捉えることが可能となる。これらのデータは、未来を断定するものではないが、何もしなければ起こり得る現実や、見過ごされがちな地域差を可視化し、専門職としての危機意識を喚起する重要な手がかりとなる。さらに、地域と未来を理解することは、理学療法士の役割や関わり方を拡張する可能性を持つ。医療機関内での実践にとどまらず、生活期リハビリ、多職種連携、行政との協働など、地域全体を視野に入れた専門性の発揮が求められる時代において、データは共通言語として機能する。

本講演では、データに基づく地域医療のこれからを、特に中国ブロックを中心に外観し考察するとともに、理学療法士自身が地域を調べ、読み解くための基本的な考え方や方法を紹介する。データを扱うことは目的ではなく、地域を理解し、より良い明日を準備するための手段である。データを扱える理学療法士の可能性を示し、未来に対する前向きな「約束」を共有する機会としたい。

神戸 翼 先生

略歴

臨床検査技師免許取得後、製薬関連企業に就職し治験業務に従事。その後、カナダへの海外留学、国内ビジネススクールを経て、慶應義塾大学大学院で医療マネジメントを専攻(Master of Healthcare Management)。在学中にはコンサルティングファームで働きつつ、大学院のメンバーと患者向けスマホアプリの開発・運営を行うソーシャルベンチャーを立ち上げる。卒業後は慶應義塾大学 SFC 研究所上席所員や大手医療法人の経営戦略・政策責任者を経て、医療経営と医療政策を軸にしたシンクタンクを起業し現在に至る。働きながらリカレントを実践し、早稲田大学公共経営大学院で公共政策や政治・経済、行政学を修め(Mater of Public Management)、2017-2021 年まで某与党国会議員の政策顧問として国会対応に従事し、2024 年 11 月より再度政策顧問に就任した。また、2024 年 4 月からは武蔵野美術大学・造形学部にも通っている。日本臨床衛生検査技師会では、認定資格制度「医療技術部門管理資格」と「医療管理者資格」の企画・運営に従事し審議会委員長を務め、地域医療の分析と医療機関の資源管理に基づいたマネジメントの必要性について、管理者教育に従事している。大学では非常勤講師として医療リスクマネジメント(医療安全など)を教える。専門は医療経営、医療政策、医療 IT、政治・行政、地方自治など。

教育講演 I

回復への難所に対峙する

～運動器の痛みの臨床課題と実践のアイデア～



講師 ^{ひらかわ よしゆき} 平川 善之 先生

(福岡リハビリテーション病院 リハビリテーション部)

座長 山科俊輔 (島根大学医学部 環境保健医学講座)

症例を共有しつつ話を進めさせたい。

30代女性無職。交通事故により左肩関節唇損傷で修復術を施行され、術後3年ほどで当院受診した。左上肢全体に痛みと機能障害を有し、アロディニアの状態であった。ADLでは補助手レベルであり、将来への不安から鬱も指摘されていた。さらに左上肢が「自分の身体ではない」と身体所有感と身体認知能力の低下や、自律神経障害から色調の変化も認めた。こうした自身の左上肢に対し強い嫌悪感を有した。

近年、痛みの出現や増悪に器質的(生物的)要因、心理的要因、社会的要因といった多要因が関与することが報告されている。本症例では、左肩関節唇損傷と術後の器質的要因と、不安や鬱などの心理的要因、社会的孤立感や周囲の視線など社会的要因が複雑に関わっていた。

介入は、痛みや機能障害に対し物理療法や徒手療法を行い、身体認知能力の改善にミラーセラピーなどを中心に、効果のエビデンスがある種々の介入を積極的に実施したが、効果は一過性で本人にも諦め感が見受けられた。まさに「難所」である。しかし、本人との会話の中で、自身の左上肢への醜形感が痛みの増悪に関与していることが共有できた。そして、症例と一緒に醜形感を感じず心地良い身体所有感が回復できるような介入方法を検討し実践した。その結果徐々に症状と機能障害が改善し、現在は仕事に従事し社会的役割を果たしている。

本症例を通じて、「難所に対峙する」ためのセラピストの役割を考える。まずは一般的な痛みの関連要因を知見として有し、的確な評価と介入を実践できることが望まれる。そして最も重要なことは、症例の声を丁寧に聴取し、評価機器や質問用紙では表現されない痛み関連要因を推察して問題点を仮説立てることが必要となる。その上でセラピストの考えを伝え方向性を共有できるための患者教育を行い、症例と話し合いながら治療を進めていき、良質なアドヒアランスを形成することが望まれる。本講演ではこうした点について話題提供したい。

平川 善之 先生

学歴

2007 年 国際医療福祉大学 大学院 医療福祉学研究科 修了 保健医療学修士

2014 年 畿央大学 大学院 健康科学研究科 博士課程 修了(健康科学博士)

社会的活動

日本ペインリハビリテーション学会 理事、日本運動器疼痛学会 代議員、理学療法ジャーナル 編集同人

資格

専門理学療法士(運動器、スポーツ)

受賞歴

第9回日本運動器疼痛学会 ポスター優秀賞(2016年)、日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会 JOSKAS 膝賞(2018年)、第24回日本ペインリハビリテーション学会学術大会 優秀賞(2019年)

教育講演Ⅱ

回復への難所に対峙する

～脳卒中領域の臨床課題と実践のアイデア～



講師 ^{さ さ き} 佐々木 ^{しょう た} 翔太 先生

(島根大学医学部附属病院 リハビリテーション部)

座長 飯田祐輝 (島根県立中央病院)

脳卒中リハビリテーションの臨床において、皆様はどのような瞬間に「難所」を感じているだろうか。その難所は急性期から生活期といった関わるフェーズや、各々が置かれた臨床環境によって極めて多様であると推察する。本講演では、我々が直面しやすい難所を整理し、それらを乗り越えるための視点を共有する。

まず、「エビデンスと臨床実践の乖離」を一つの難所として取り上げたい。脳卒中治療ガイドラインは改訂を重ね、新たな介入の推奨や既存介入の推奨度の変更を経て現在に至る。日々エビデンスは積み重ねられているが私たちの臨床はどのように変化しているだろうか。最新の情報を収集し、推奨される介入を適切に実践していくには療法士個人のみなならず組織としての取り組みが必要不可欠である。ここでは Evidence-Based Practice (EBP) の概念を改めて整理した上で臨床現場にいかにより最新の知見を実装していくかのアイデアをいくつか示したい。

また、「既存エビデンスのみでは容易に解決できない多様な問題の存在」も難所として取り上げる。臨床では標準的アプローチのみでは解決できない複雑な問題に多々遭遇する。脳卒中の病態としての多様さに加え、多疾患併存(multimorbidity)の対象者も少なくない。そして対象者の社会的背景や価値観も実に多様である。こうした個別性の高い問題に対しては、脳卒中に加え多疾患の病態や社会システムに及ぶ幅広い知識、そして人間やリハビリテーションそのものに対する深い理解が求められ、その道のりは容易ではない。ここでは療法士の詳細な観察・評価による病態解釈に加え施設内や施設間での症例・事例検討の重要性に触れつつこの難所へ立ち向かう方策を提案したい。

本講演を通じて、臨床の難所を突破するために皆様が「明日へ約束」できるようなアクションプランを少しでも提供できれば幸いである。

佐々木 翔太 先生

職歴

2017 年 島根大学医学部附属病院リハビリテーション部

(2021 年～ Stroke care unit 専任理学療法士)

学歴

2017 年 県立広島大学 保健福祉学部 理学療法学科 卒業

2022 年 島根大学大学院 医学系研究科修士課程 修了 修士(医科学)

資格

脳卒中認定理学療法士

物理療法認定理学療法士

社会活動

島根県理学療法士会学術局神経領域専門部会 代表運営幹事

日本神経理学療法学会島根地方会 リーダー

教育講演Ⅲ

回復への難所に対峙する

～循環器領域の臨床課題と実践のアイデア～



講師 ^{あんど} 安藤 ^{かおり} 可織 先生

(岡山赤十字病院 リハビリテーション科)

座長 須山朋子 (島根県産業保健総合支援センター)

日本では超高齢社会の進展に伴い、多疾患併存やフレイルを有する心疾患患者が増加している。その中でも心不全は再入院率・死亡率が高く、生活の質を低下させる慢性進行性疾患である。急性期から生活期まで、病態の不安定性・生活行動の複雑性・社会的要因が重層的に絡み合う現在、循環器理学療法には新たな視点と実践の再構築が求められている。

本講演ではまず、循環器疾患患者の変化と臨床課題を整理する。特に、入院中に日常生活動作能力が低下する入院関連機能障害が生じやすい現状を踏まえ、早期離床と適切な活動量確保の重要性を強調する。また、再入院リスクの高さや生活行動の不確実性など、現場で理学療法士が直面する“難所”を明確化する。

早期離床を進めるには、循環動態の不安定性や併存疾患を踏まえたリスク管理が不可欠であり、多職種が協働して安全性を支えるチーム医療の構築が求められる。各職種が専門的知見を共有し、離床の適応判断や活動量設定を多角的に検討することで、より質の高い介入が可能となる。

また、退院後に地域医療が主体的に関与することは予後改善や再入院率低下に寄与しており、病院―地域間の連携強化は循環器疾患管理における重要な要素である。情報共有を基盤とした継続的支援体制の構築が、生活期の安定と再発予防に貢献する。その中で理学療法では、急性期と生活期を連続したプロセスとして捉える「リハ-リハ連携」を重視したい。病院と地域の理学療法士が情報・目標・介入方針を共有し、退院後の活動量の変動や増悪リスクを早期に捉えることで、再入院予防に寄与する実践モデルとして機能する。

本講演を通じて、循環器理学療法の未来を見据えた新たな視点と、臨床の難所を乗り越えるための実践的アプローチを共有したい。

安藤 可織 先生

学歴

2006 年 3 月 国立病院機構呉医療センター附属リハビリテーション学院 卒業

2026 年 3 月 兵庫医科大学 大学院リハビリテーション科学研究科 卒業

職歴

2006 年～2020 年 独立行政法人国立病院機構岡山医療センター

2020 年 4 月～8 月 独立行政法人国立病院機構呉医療センター

2020 年 9 月～現在 岡山赤十字病院

所属学会

日本理学療法士学会

日本循環器学会

日本心臓リハビリテーション学会

日本心不全学会

日本肺高血圧・肺循環学会

日本呼吸ケア・リハビリテーション学会

日本骨粗鬆症学会

資格

2009 年 日本心臓リハビリテーション指導士

2017 年 日本心臓リハビリテーション上級指導士

2010 年 3 学会合同呼吸療法認定士

2016 年 認定理学療法士(循環/呼吸)

2018 年 骨粗鬆症マネージャー

2024 年 心不全療養指導士

学会賞

○2012 年,日本心臓リハビリテーション学会 YIA 賞

○2014 年,日本循環器学会 コメディカル賞

○2015 年,日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 特別演題賞

○2017 年,日本理学療法学会/心血管理学療法学会 学術集会長賞

役員

循環器理学療法学会 評議員

岡山県理学療法士学会 理事

循環器協会 Go Red For Women Japan メンバー

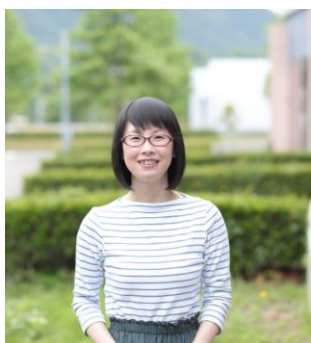
8月29日(土) 15:20～16:50 くにびきメッセ 第1会場(国際会議場) *オンデマンド配信(HP)あり

シンポジウム I

地域の暮らしを育むヒント ～「繋ぐ」ことへの新たな提案～

座長 野村道德(益田地域医療センター医師会病院)

理学療法、リハビリテーションの究極のゴールは1人1人が地域の中で「幸せに暮らす」ことに他なりません。しかし、その幸せが成立する要素は多面的、多層的であり一次方程式のような単純なモデルでは示す事が出来ません。そのような中でも、人と人との関わりや機会、社会との繋がりや地域に存在する様々な難所を人同士が補完し合い、乗り越えていく強力なものだと考えています。本セッションでは、地域で人々が暮らしを育むために必要なヒント、そして理学療法士ができることを実践者の皆さんからご提案いただき議論を深めていきます。



関係人口とウェルビーイング

講師 たなか 田中 てるみ 輝美先生 (島根県立大学)

略歴

島根県浜田市出身・在住.大阪大学卒.山陰中央新報社に入社し,2013年新聞協会賞受賞.2014年「ローカルジャーナリスト」という肩書きをつくって独立.大阪大学大学院人間科学研究科で関係人口を研究して博士(人間科学)を取得し,2021年から現職.著書に『関係人口の時代』、共著に地域発信の教科書『ローカルジャーナリストガイド』など.地元の築89年の旧農協を改修し,宿泊とイベントが可能な「美又共存同栄ハウス」を運営中.



地域で暮らすを支える ～暮らしのリノベーションの視点～

講師 はしもと こうた 橋本 康太 先生（株式会社暮らし）

略歴

1992 年生まれ、広島県三原市在住。広島国際大学を卒業後、社会医療法人社団沼南会にて、デイケアやデイサービスでの機能訓練業務・病棟でのリハビリテーション業務、社会福祉法人祥和会にて、特別養護老人ホームでの機能訓練業務を経験。その後、2022 年 5 月に株式会社暮らしにてデイサービス事業を開始。現在は、デイサービス、訪問介護、居宅介護支援事業所（2026 年 4 月予定）の介護保険事業を主に運営している。



地域と生きるプロジェクト

講師 岡村 健司 先生（リハプランいずも合同会社）

略歴

リハプランいずも合同会社 代表 回復期・急性期病院で勤務後 平成 12 年介護支援専門員登録、平成 14 年より在宅医の元で通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション部門の管理者として従事、令和 2 年 4 月より現職、主任介護支援専門員 2 名と居宅介護支援事業所を運営、県士会活動（総務部部長、産業保健委員会）と共に地域のニーズとリハビリテーション専門職をマッチングする事業を実施、また NPO 法人副代表として安心して暮らせる街づくりを推進している

8月30日(日) 10:50~12:20 くにびきメッセ 第1会場(国際会議場) *オンデマンド配信(HP)あり

シンポジウムⅡ

未来へ歩み続ける理学療法士の育成 ～プロフェSSIONナルが育つ培養地をどう作るか?～

座長 藤丘 政明 (島根県立中央病院)

理学療法士が社会にその価値を届けるためには、人材育成が重要であることは言うまでもありません。しかし、生涯学習制度や、教育システムを基盤とした一方向的な教育(知識があるものが無いものに教える)だけでは、プロフェSSIONナルを育成する学びは成立しません。組織やチームの中で、学び合い成長し合える風土を生み出すためにどんなことができるのか、本セッションを通じて中国ブロックの各地で学びの実験アイデアを創出します。



成長の初速度を上げるレジデント制度

講師 ^{ひらい}平井 ^{ともや}智也 先生 (広島大学病院)

学歴

2016年3月 北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 卒業

2016年4月 北里大学北里研究所病院 診療技術部 リハビリテーション技術科

2022年4月 北里大学北里研究所病院 心臓リハビリテーションセンター専任

2023年4月 広島大学病院 診療支援部 リハビリテーション部門



臨床の疑問に向き合う研究チームの作り方

講師 ^{わだ}和田 ^{たかし}崇 先生（鳥取大学医学部附属病院）

学歴

2009 年: YMCA 米子医療福祉専門学校理学療法士科卒業

2020 年: 鳥取大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程卒業（保健学博士）

職歴

2009～2012 年 医療法人孟仁会東大阪山路病院・摂南総合病院

2013～2015 年 社会医療法人仁厚会米子東病院

2015 年～現在 鳥取大学医学部附属病院

委員歴

2025 年～現在 日本腰痛学会評議員

2025 年～現在 日本転倒予防学会編集委員



「教える」から「共に育つ」へ ～人と知をつなぐ「ハブ」としての職能活動と、 次世代のリーダー育成～

講師 ^{みずの}水野 ^{ひろあき}博彰先生（下関市立市民病院）

所属

下関市立市民病院 リハビリテーション部 主任

弘前大学大学院 保健学研究科 博士前期課程

学歴・職歴

2009 年 国立病院機構 米子医療センター 入職

2011 年 下関市立市民病院 入職

2022 年 同院 リハビリテーション部 主任

2025 年 弘前大学大学院 保健学研究科 博士前期課程 入学

学会・社会活動

山口県理学療法士会 常任理事

中国ブロック理学療法士学会 評議委員

下関心臓リハビリテーションネットワーク 代表世話人 など

8月30日(日)13:20~14:50 くにびきメッセ 第1会場(国際会議場) *オンデマンド配信(HP)

基幹シンポジウム

私たちの明日への約束

座長 江草典政 (島根大学医学部附属病院)

本プログラムは、学術大会の最終セッションとして位置付け、“Think global Act Locally”をコンセプトにリハビリテーションや理学療法の課題だけでなく、「明日(これから)」について、ディスカッションを進めます。シンポジスト・ディスカッサントには、各県から選出された Next generation を担う方々や、業界のリーダーを迎え大会長がファシリテートします。そして何よりこのセッションでは、参加者1人1人が「わたくしごと」の明日の約束が見つかるような時間を創り出します。ぜひ最後までご参加下さい。

**CB
PT**

Chugoku Block
Physical Therapist
Conference 2026
8.29_{sat} 30_{sun}



各県士会推薦者(Next Generations): 島根県代表

講師 ^{たけだ}武田 ^{こずえ}梢 先生 (隠岐広域連合 隠岐島前病院)

略歴

2000年生まれ。千葉県出身。隠岐島前高校を卒業後、東京メディカル・スポーツ専門学校卒業。理学療法士免許を取得。現在は隠岐島前病院にて勤務し、地域医療に従事している。小中学校への介入や住民向け健康づくり活動にも取り組み、地域に根ざした理学療法の実践と発信を行っている。



各県士会推薦者(Next Generations): 岡山県代表

講師 ^{てらなか}寺中 ^{まさとも}雅智 先生 (倉敷平成病院)

略歴

2012年3月 朝日医療専門学校福山校卒業
2012年4月 社会医療法人全仁会倉敷平成病院 リハビリテーション部 理学療法科 入職
2022年～ 川崎リハビリテーション学院 非常勤講師
2025年3月 岡山県立大学保健福祉学研究科保健福祉学専攻 修士卒業
2025年 日本地域理学療法学会発表
2025年～ 岡山県理学療法士会 理事就任
2025年～ 岡山県リハビリテーション専門職団体連絡会 副会長就任
2026年4月 岡山県立大学保健福祉学研究科保健福祉科学専攻 博士後期課程 入学



各県士会推薦者(Next Generations):広島県代表

講師 ^{いむら たけし}猪村 剛史 先生 (広島大学大学院医系科学研究科)

略歴

2011 年 4 月－ 医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院 理学療法士
2014 年 4 月－ 医療法人光臨会 荒木脳神経外科病院 副主任理学療法士
2015 年 4 月－ 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科（現 医系科学研究科）助教
2020 年 4 月－ 広島都市学園大学 健康科学部リハビリテーション学科 講師
2024 年 4 月－ 広島都市学園大学 健康科学部リハビリテーション学科 准教授
2025 年 4 月－現在 広島大学大学院 医系科学研究科 准教授



各県士会推薦者(Next Generations):鳥取県代表

講師 ^{なかがわ しんご}中河 真吾 先生 (博愛病院)

略歴

2016 年 3 月 YMCA 米子医療福祉専門学校を卒業しました。同年 4 月から現在まで社会医療法人同愛会博愛病院に勤務し、主に急性期病棟と地域包括病棟、外来業務を担当しています。2020 年 4 月鳥取大学医学系研究科医科学専攻に入学し、2022 年 3 月に修士課程を修了。現在、鳥取県理学療法士協会では公益事業部とスポーツ支援部に所属し、学校保健分野とスポーツ現場で理学療法士として活動しています。



各県士会推薦者 (Next Generations) : 山口県代表

講師 ^{いしみつ}石光 ^{ゆうた}雄太 先生

(独立行政法人国立病院機構関門医療センター)

学会/研究会活動

山口県理学療法士会 保健事業推進部 部長
山口県理学療法士会 災害対策推進部 委員
山口県理学療法士会 内部障害班 班員
山口県理学療法士会 災害対策部 委員
日本産業理学療法研究会 国際委員会 委員
日本呼吸ケア・リハビリテーション学会 中・四国支部 代議員
山口呼吸ケア・ネットワークセミナー 世話人
日本臨床気道クリアランス研究会 監事
宇部市 通所 C 検討委員会 委員
山口県/山口県医師会 COPD 対策員会 委員



中国ブロック理学療法士会 代表会長

講師 ^{こうた}甲田 ^{むねつぐ}宗嗣 先生

学歴

1999 年 広島県立保健福祉短期大学卒業
2007 年 広島大学大学院保健学研究科修了 博士(保健学)

職歴

1999～2001 年 赤穂市民病院
2001～2007 年 広島県立保健福祉大学・県立広島大学
2008～2015 年 広島市立リハビリテーション病院
2015 年～現在 広島都市学園大学

主な社会活動(現職)

広島県理学療法士会 会長
広島県理学療法士連盟 副会長
日本精神・心理領域理学療法学会 理事



日本理学療法士協会 会長

講師 ^{さいとう ひでゆき} 齊藤 秀之 先生

略歴

日本理学療法士協会会長／博士(医学)／専門理学療法士

1988 年金沢大学医療技術短期大学部を卒業後、1999 年筑波大学大学院修士課程医科学研究科修了、2002 年同大学院博士課程医学研究科修了。1988 年、藤井脳神経外科病院に入職、1988 年筑波記念病院入職、理学療法科長、リハビリテーション部部长を経て、2011 年から日本理学療法士協会理事に就任、2013 年副会長を経て、2021 年 6 月より会長に就任。



日本理学療法士連盟 会長

講師 ^{やまね かずと} 山根 一人 先生

略歴

1985 年 愛媛十全医療学院卒業 岡山市立市民病院勤務
1990 年 JRS 日本リハビリテーションサービス創業
1998 年 (株)アール・ケアに組織変更 代表取締役(現在に至る)
2007 年 日本理学療法協会理事(2021 年退任)
2024 年 玉野商工会議所会頭 岡山県商工会議所連合会理事(現在に至る)
2023 年 日本理学療法士連盟会長(現在に至る)
2024 年 日本理学療法協会理事(現在に至る)

8月29日(土) 15:20～16:50 くにびきメッセ 第2会場(小ホール) *オンデマンド配信(HP)あり

Pros Cons

人が育つために必要なこと

～熱量VS理論～

司会 森山 智博 (飯南病院)

明日を創り出す理学療法士を生み出すためには人を育てていくことが重要です。その際に必要なのは指導者や環境が創り出す「熱量」でしょうか、それとも仕組みや学術背景といった「理論」でしょうか。Pros & Cons のセッションにおいては意図的に構造化したディベート方式を採用し、それぞれの立場から意見を交わします。また、昨今は意見を対立軸からぶつけるという機会はそう多くなく対立を避ける傾向にありますが、学術大会の場で、異なる立場からの意見がぶつかることによってより深い事象の理解が得られることを皆さんと体感的に学び、地域でまた職場での議論を生み出すきっかけとします。



講師 ^{いわもと}岩本 ^{よしとか}義隆 先生 (広島大学病院)

学歴

2009-2013 広島大学 医学部保健学科 理学療法学専攻、理学療法士免許取得
2013-2018 広島大学大学院 医歯薬保健学研究科、博士(保健学)取得
2018-2020 医療法人社団まりも会 ヒロシマ平松病院 リハビリテーション部
2020-2023 広島大学大学院 医系科学研究科 保健学分野 助教
2023-現在 広島大学病院 診療支援部 リハビリテーション部門



講師 ^{こばら けんいち} 小原 謙一 先生（川崎医療福祉大学）

職歴

細木病院, 川崎医療福祉大学 助手, 助教, 講師, 准教授を経て 2021 年より現職(教授)

学位

2010 年 広島大学大学院保健学研究科博士課程後期修了, 博士(保健学)

学会活動

第 15 回日本支援工学理学療法学会学術大会、第 21 回日本シーティング・シンポジウム 合同大会大会長、
第 30、31 回岡山県理学療法士学会大会長

理事

日本支援工学理学療法学会、岡山県理学療法士会、日本褥瘡学会、日本シーティング・コンサルタント協会



講師 ^{いしだ しゅうへい} 石田 修平 先生（島根大学医学部附属病院）

略歴

2011 年 県立広島大学保健福祉学部理学療法学科 卒業

2011 年 島根大学医学部附属病院 入職

2018 年 島根大学医学系研究科 修士課程修了



講師 ^{ふくしま} 福島 ^{すぐる} 卓 先生（松江総合医療専門学校）

学歴・職歴

- 2014 年 松江総合医療専門学校理学療法士科 卒業
- 2014 年 大山リハビリテーションリハビリテーション部
- 2019 年 鹿島病院リハビリテーション科
- 2021 年 松江総合医療専門学校理学療法学科
- 2023 年 吉備国際大学大学院保健科学研究科 修士課程修了

8月30日(日) 8:00~9:00 くにびきメッセ 第1会場(国際会議場)

モーニングセミナー I

理学療法士の仕事の Tips

理学療法士が仕事に活かす生成 AI 講座



講師 おおもり たかし 大森 貴志 先生

(ケアプロ訪問看護ステーション島根 松江ステーション)

座長 嘉本侑馬 (雲南市立病院)

医療・介護分野において業務の効率化や人手不足の課題への対応として、生成 AI(Artificial Intelligence)の活用は期待されているテーマです。PT-OT-ST.NET(2025)による理学療法士等を対象とした調査では、生成 AI 利用者の 90%以上が必要性や満足度を感じている一方で、未利用者の 69%は使用意欲があるものの、使用するきっかけがないと報告しています。

生成 AI は目的に合わせて成果物を出力する道具であり、使い方次第で価値も危うさも変わります。どのような活用方法でも、まずはプロンプト(指示)の入力から始まります。本講演では、生成 AI の仕組みやプロンプトの考え方、ハルシネーション(幻覚・誤情報)への備え、医療・介護分野で特に避けるべき利用について整理します。臨床の直接介入や医療判断を代替する使い方は中心とせず、理学療法士の身近な事務業務や学習から安全に活用を始める方法を提示します。

具体的には文章作成や要約、企画支援、資料作成、画像・スライド・動画の生成、学習支援、リサーチなど個人でも行える活用方法についてプロンプト例を用いながら紹介します。生成 AI を使うと「手を抜いている」と感じる方もいるのではないのでしょうか。実際に使ってみると、繰り返し修正することや目的からずれて時間が余計にかかることもあります。失敗例も含めた実践的な事例や、改善に繋がったプロンプトを共有します。

講演の中で参加者自身が体験する時間を設けるため、生成 AI のアプリを準備できる方は、事前にご準備ください。アプリがなくても体験の流れは学べます。まずは試してみて、活用できる場面を一緒に考えていきましょう。本講演後に、仕事に活かせるプロンプトの型を持ち帰り、生成 AI を活用したくなるような学びの機会となることを約束します。

大森 貴志 先生

学歴

2008 年 03 月 YMCA 米子医療福祉専門学校 理学療法士科 卒業

職歴

2008 年 04 月 ひかわ医療生活協同組合 斐川生協病院

2010 年 10 月 訪問リハビリテーション

2011 年 08 月 通所リハビリテーションなごみ 副主任

2014 年 04 月 医療法人峻和会 こころね訪問看護ステーション

2017 年 01 月 こころね訪問看護ステーション 副主任

2018 年 10 月 株式会社メディカル・ケア西日本 こころね訪問看護ステーション春日町 主任

2023 年 12 月 ケアプロ在宅医療株式会社 ケアプロ訪問看護ステーション島根 松江ステーション

2025 年 04 月 ケアプロ訪問看護ステーション島根 松江ステーション チーフ

資格

認定理学療法士(地域理学療法)

3 学会合同呼吸療法認定士

訪問リハビリテーション管理者養成研修会(STEP3) 修了

Google AI Essentials 修了

Google Prompting Essentials 修了

社会活動

2015～2019 年 一般社団法人 島根県理学療法士会 学術局学会部部長

2019 年～ 一般社団法人 島根県理学療法士会 理事

2022 年 第 19 回島根県理学療法士学会 学会長

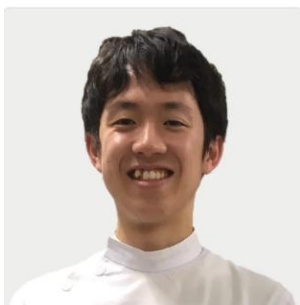
2023 年～ 一般社団法人 島根県理学療法士会 事務局長

8月30日(日) 8:00~9:00 くにびきメッセ 第2会場(小ホール)

モーニングセミナーⅡ

理学療法士の仕事の Tips

～臨床で活用できる論文検索の考え方、テクニック～



講師 いけだ ともひろ 池田 朋大 先生

(岡山大学病院 総合リハビリテーション部)

座長 佐藤慎也 (島根大学医学部附属病院)

論文検索は、臨床判断に迷いが生じた際の意思決定を支える有力な手段である。しかし実際には、検索しても「知りたい情報に辿り着けない」という壁に直面することが少なくない。その背景には検索スキルの不足だけでなく、「何を調べるべきか」という臨床疑問の設計が曖昧なまま検索を開始している場合がある。問いが不明確なままでは、関連性の低い文献の探索や読解に時間を費やし、必要な情報に到達できないばかりか、結論の読み違いやエビデンスの誤用にもつながりかねない。したがって、臨床疑問を整理し、効率よく必要なエビデンスにアクセスし、臨床現場に活用するノウハウを身につけることは、多忙な臨床家にとって重要な課題である。

そこで本講演では、まず臨床現場で生じる漠然とした問いを「検索可能な問い」へ落とし込むためのフレームワーク(PICO、PECO など)や、疑問を整理するための思考プロセスを実例とともに提示する。次に、効率的な検索戦略として、診療ガイドライン、システマティックレビュー等の要約・統合された二次情報から検索し、必要に応じて一次研究を探索する「情報の階層的」を意識したアプローチについて解説する。あわせて、近年注目されている生成 AI を用いた検索・要約方法について、実践ツールとその活用方法を紹介し、ハルシネーションなどのリスク管理も共有する。

後半では、臨床現場で遭遇しやすいテーマを想定した論文検索の演習を行う。臨床疑問の整理から検索戦略の立案、得られた情報を診療に結びつけるプロセスを実際に体験してもらう。本講演を通じ、参加者が日常臨床における問いの整理からエビデンスへのアクセス、そして適切な解釈・実装に至る実践的なプロセスの理解を深め、日々の臨床判断の一助にしていいただければ幸いである。

池田 朋大 先生

学歴

- 2013 年 3 月 県立広島大学保健福祉学部理学療法学科卒業
2014 年 4 月-現在 岡山大学病院総合リハビリテーション部入職(現職)
2022 年 3 月 県立広島大学大学院保健福祉学専攻博士前期課程修了
2025 年 4 月-現在 県立広島大学大学院保健福祉学専攻博士後期課程在籍

業績(論文)

- Ikeda T, et al. Association between accelerometer-measured light-intensity physical activity and tumor regression for male patients with esophageal cancer receiving neoadjuvant therapy: a retrospective cohort study. Esophagus. Published online, 2025
- Ikeda T, et al. Effectiveness of prehabilitation during neoadjuvant therapy for patients with esophageal or gastroesophageal junction cancer: a systematic review. Esophagus. Published online, 2024.
- Ikeda T, et al: Effects of Nutritional Support with Neuromuscular Electrical Stimulation on Muscle Strength and Thickness: A Randomized Controlled Trial in Healthy Young Adults Males. Acta Medica Okayama. 2023;77(2):193-197.
- Ikeda T, et al. Validity of the 30-Second Chair-Stand Test to Assess Exercise Tolerance and Clinical Outcomes in Patients with Esophageal Cancer: A Retrospective Study with Reference to 6-Minute Walk Test Results. Acta Med Okayama. 2023;77(2):193-197.
- Ikeda T, et al. The combined intervention of neuromuscular electrical stimulation and nutrition therapy: A scoping review. Clin Nutr ESPEN. 2023;54:239-250.
- Ikeda T, et al. Effectiveness of early exercise on reducing skeletal muscle loss during preoperative neoadjuvant chemotherapy for esophageal cancer. Surg Today. 2022;52(8):1143-1152.
- 池田朋大, 岡村和典, 福田謙吾・他:超音波画像診断装置を用いた筋厚測定の信頼性にプローブ圧のモニタリングの定量化が及ぼす影響—健常成人を対象とした予備的検討—. 物理療法科学. 28. 2021
- Konuma M, Ikeda T(責任著者), Mitoma T, et al. Effectiveness of exercise therapy on chemotherapy-induced peripheral neuropathy in patients with ovarian cancer: A scoping review. Gynecol Oncol. Published online, 2024.

委員歴

- 2025 年-現在 日本がん・リンパ浮腫理学療法学会, 日本がん・リンパ浮腫理学療法学会、消化器がん部会、食道癌グループリーダー
2024 年-現在 日本がんサポーターズケア学会, がんリハビリテーション部会 部会員
2024 年-現在 日本がん・リンパ浮腫理学療法学会, 学術誌委員
2023 年-現在 日本がん・リンパ浮腫理学療法学会, 評議員
2017 年-現在 岡山県理学療法士会学術局, 学術部員

依頼執筆

- システマティックレビューがスラスラと読める・書ける本. メジカルビュー社. 2025
スコopingレビューが短期間で読める・書ける本. メジカルビュー社. 2024
ホームエクササイズ Vol.1-4. おかやま DM ネットジャーナル. 2022; 21:7.
With コロナ・After コロナにおける運動器の健康 運動器リハビリテーションにおけるコロナ対策:運動器リハビリテーション 31(3) 230-239 2020 年

8月29日(土) 11:00～12:00 くにびきメッセ 第1会場(国際会議場)

プレセミナー I

私への約束

～患者と共に前進するナラティブアプローチのすゝめ～



講師 たなか ゆうすけ 田中 祐介 先生

(公立邑智病院 リハビリテーション科)

座長 岡村凌 (益田地域医療センター医師会病院)

この世界で生きる人には多様な側面が存在する。理学療法士として歩む生活者や何らかの病気を患う病者。さらに病者は医療者の前にいるときのみ患者である(星野,2006)。私は理学療法士であり脳腫瘍(Grade:4)を患う病者でもある。つまり医療者と患者、両者の側面を持つことが私の特徴である。このことは自らに新たな視座を与えた。以下に述べることは何気ない日常の一コマである。

はじめに理学療法士として語る。リハビリテーション室といういつもと変わらない空間で、患者の機能回復や目標達成に向けて単位という時間のもと、理学療法を実施する。明日も明後日もきっとそうである。

次に患者として語る。それは生活者として過ごす毎日に突然現れる。病気を患い、心身に変化をきたし、入院患者という社会的マイノリティに属することとなる。そんな孤独に苦しむ患者にとってリハビリテーション室は、明日への希望に満ち溢れた特異的空間である。この空間に存在する人の名前や背景は何も分からない。共通することは患者という側面のみである。それでも不思議と孤独は解消される。それぞれが希望を抱き医療者と語り合う。このリハビリテーションという時間は何事にも代え難いほど貴重で、病いという物語の一つを構成する役割を成す。

患者にとってこれだけ濃密な時間を共に過ごす医療者の存在は貴重である。故に、病いと進む患者の物語に色褪せない1ページを記すため、ナラティブという言葉で済まされない問いを学び、探求することは我々に求められる姿勢である。そして私には、病者として歩むようになってから今日に至るまで、変わらない想いがある。理学療法士として実績のない私に脳腫瘍という病気が贈られたことは、何かしらの意味がある。これを明らかにすることが私の病いという物語である。本セミナーが患者と我々の大切な物語を彩り豊かにする一助となれば幸いである。

田中 祐介 先生

略歴

2017年3月 学校法人大阪滋慶学園出雲医療看護専門学校理学療法士学科 卒業

2017年4月 公立邑智病院診療技術部リハビリテーション科 入職

資格

認定理学療法士(脳卒中)

8月29日(土)11:00~12:00 くにびきメッセ 第2会場(小ホール)

プレセミナーⅡ

私への約束

～患者と共に前進するための実践的研究のすゝめ～



講師 ^{たにうち} 谷内 ^{りょうま} 涼馬 先生

(国立病院機構松江医療センター)

座長 西川 準 (松江医療センター)

日々の理学療法業務の中で「これでいいのだろうか」「こうすればもっと良くなるかもしれない」など、漠然とした疑問を抱くことは誰も経験することだろう。臨床現場で生じる疑問や解決すべき課題に対する答えを導き出す手段として、診療ガイドラインや参考書の精読をはじめとした文献検索は、卒後教育においても一般的に行われている。しかし、実臨床においては必ずしもエビデンスどおりの効果が認められるとは限らず、最前線では患者個々の病態に即した治療が、試行錯誤の過程で行われている。臨床現場の理学療法士は、このギャップの存在に気付いているだろうか。臨床研究は日常診療における疑問から始まり、実臨床とエビデンスのギャップに気付くことで少しずつ形となっていく。そして理学療法の研究は、一部の才能ある人材だけが行うものなのだろうか。この問いに対し、福沢諭吉の『学問のすゝめ』に記された次の一節を引用する。

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」

「ただ学問を勤めて物事をよく知る者は貴人となり富人となり、無学なる者は貧人となり下人となるなり」

「学問の要は活用にあるのみ。活用なき学問は無学に等し」

理学療法士の能力に差が生じるのは、才能の違いではなく、年月とともに学問を身につけ、物事の道理を理解してきたかどうかによる。また、学問の最も重要な点は、それを実生活や社会の中で活かすことにある。すなわち、理学療法の研究は学問を具現化する実践的な手段であり、その成果は目の前の患者に還元されなければならない。本セミナーでは、「臨床現場の理学療法士が研究を行うことのハードルは決して高くないこと」、ならびに「臨床の最前線にいるからこそ成果に価値があること」について、実践例を通して解説する。

谷内 涼馬 先生

学歴

2013 年 広島大学医学部保健学科 卒業

2021 年 県立広島大学大学院総合学術研究科博士課程前期 修了

2024 年 県立広島大学大学院総合学術研究科博士課程後期 修了

職歴

2013 年 国立病院機構呉医療センター・中国がんセンター

2018 年 国立病院機構広島西医療センター

2025 年 国立病院機構松江医療センター 主任理学療法士

学会活動

日本神経理学療法学会戦略的課題解決委員会 パーキンソン病班